

やまびこ

発行日：平成26年1月 発行：高山赤十字病院 高山市天満町3丁目11番地 TEL 0577-32-1111 発行責任者：地域連携課

本年もよろしく お願い申し上げます

高山赤十字病院 病院長 棚橋 忍



新年あけましておめでとうございます。本年もよろしくお申し申し上げます。

当院が地域医療支援病院に指定されて2年が過ぎました。開業医の先生方、福祉、介護の皆さま方のご支援により、おおむね順調に経過していると思います。平成25年度の紹介率、逆紹介率はそれぞれ65%前後、45%前後で推移しています。また、地域連携課経由の紹介は350件/月、医療機器共同利用件数は70件/月で順調に増加してきています。

当院は地域医療支援病院として、地域医療の確保、救急患者の円滑な受け入れ、機器の共同利用、地域の医療従事者の研修等が求められています。昨年はMRIを1.5テスラに機能をアップし更新しました。また、現在リニアックをさらに機能を高めた機器への更新が進行中で、本年4月より稼働します。リニアックは飛騨地域では当院しかなく、今後のがん患者の増加、高齢者の増加、機能温存への希望の高まり等を考え、飛騨地域に必要な機器であると考えています。当院は地域がん診療連携拠点病院でもあり、がん診療の高度化に対応しつつ、5大がん連携パスも運用し、がん患者さんの診療も円滑に行ってまいります。

2012年の診療報酬改定より厚労省は医療の地域連携、機能分化の方向性をさらに鮮明に打ち出し、2025年までに今の一般病床を高度急性期、急性期病床、回復期病床(亜急性期)、療養病床等に細分化し、さらに看護体制の高度化を目指しています。この方向性を受け、当院は今後とも急性期病院として、飛騨地域の医療の確保に貢献したいと考えています。このためには人的、物的資源を急性期医療に投入する必要があると判断しています。こうした点を踏まえ、当院の訪問看護ステーションを3月末で閉じることにしました。現在、患者さん、主治医の先生方に丁寧に説明を行い、順次他の訪問看護ステーションに移っていただいております。当地域の訪問看護ステーションのレベルは高いと考えておりますので、すべての患者さんを引き受けていただけるものと思います。

今後さらに地域連携を進めるとともに、院内連携も強くし、地域医療の確保に努めていきます。

目次

- | | |
|----------------------------------|---------------------------------|
| ● 病院長 新年挨拶 …………… 1 | ● 開放型病床のご利用について …………… 5 |
| ● 第23回 飛騨在宅酸素療法研究会 開催 報告 …… 2 | ● 岐阜大学医学部附属病院から感謝状を頂きました …… 5 |
| ● 飛騨地域 緩和ケアセミナー 開催 報告 …… 3 | ● 平成25年度 第3回地域医療連携検討委員会の報告 …… 5 |
| ● 地域医療介護連携懇談会 開催 報告 …………… 3 | ● 新任医師の紹介 …………… 6 |
| ● 平成25年度 第1回院内合同研究発表会 開催 報告 …… 4 | ● 退任医師 …………… 6 |
| ● 研修・講演・勉強会・検討委員会のご案内 …… 4 | ● 編集後記 …………… 6 |

第23回 飛騨在宅酸素療法研究会 開催 報告

平成25年11月16日(土)

「飛騨在宅酸素療法研究会について」

飛騨在宅酸素療法研究会 世話人

高山赤十字病院理学療法士 伊賀 真実

本年度も、飛騨・世界生活文化センターにおいて同研究会を開催致しました。医師5名、看護師40名、理学療法士17名、ケアマネージャー9名、介護士3名、保健師2名、ヘルパー2名、栄養士1名、臨床工学技士1名、その他4名、総勢84名と多数の方に参加していただきました。一般演題2題、パネルディスカッションでは『飛騨地域における継ぎ目のない呼吸リハビリテーション』と称し、6施設からご発表を賜りました。今回はHOT患者さんの病院以外でのリハビリの現状、特に理学療法士がいないサービスセンターでのリハビリに注目し、機能訓練指導員と理学療法士との勉強会を重ね、検討した結果を発表していただきました。サービスでは、レクリエーションの中に呼吸リハビリ要素を工夫して取り入れる事で、機能訓練指導員が行える呼吸リハビリに成り得ることがわかり、大きな発見がありました。特別講演は、『運動療法の導入と継続について』と題し、順天堂大学大学院 医学研究院 リハビリテーション医学 非常勤講師 佐野裕子先生からご講演を賜りました。先生からは、呼吸リハビリを継続していくツールとして日誌を用いた日々の診療の様子をご紹介いただき、とても参考になりました。

HOT患者さんが継ぎ目なくどこでも呼吸リハビリを受けられるような地域を目指すためには、病院スタッフが地域のスタッフへ、継続的な支援・協力を行っていくことが必要であると感じました。研究会で成果を発表することも大切ですが、患者さんを取巻くスタッフが連携・協力して成果を形成していく過程にこそ意義があるものと考えています。今回もまた、地域内連携の輪が広がったと確信しております。今後とも関係者皆様のご協力を賜りますよう何卒お願い申し上げます。



飛騨地域 緩和ケアセミナー 開催 報告

平成 25 年 1 月 16 日 (土)

高山赤十字病院 緩和ケアチーム

当院の地域医療研修センターにて『第 5 回がん診療に携わる医師、職員の為の飛騨地域 緩和ケアセミナー』を開催しました。

今回はシンポジウム形式で、緩和ケア認定看護師と訪問看護師からの発表、参加者を含めて飛騨地域の緩和ケアの現状などを検討するディスカッションが行われました。発表は、実際の事例を提示したもので、写真などを用いた非常に分かりやすく心に響く内容でした。

当日は医師の他看護学生を含む 95 名が参加し、自宅において少しでも快適に過ごせる環境づくり、在宅を視野においての緩和ケアのアプローチがとても重要であるということを共有しました。発表やディスカッションの場面では、看護学生からの質問が出る等、今回のようなセミナーを学生に対しても積極的に提供することが重要であると感じられました。また、参加者のアンケートには「ひだの緩和ケアの現状が知れてよかった」「緩和ケアについて連携が大切であることが再認識できた」「有意義な時間を共有することができた」という意見がたくさんありました。今後も、飛騨地域の緩和医療の充実のため、チームが一丸となり院内外へ向けて様々な情報を発信していきたいと思えます。



地域医療介護連携懇談会 開催 報告

平成 25 年 10 月 31 日 (木)

退院調整課MSW 芝 寛志

平成 25 年 10 月 31 日に「地域医療介護連携懇談会」を開催いたしました。年 1 回の開催にて今回で 9 回目を迎え、毎回入所施設の現状について現場に関わっておられる方々からの意見をいただく貴重な場となっております。

今年度は 16 の福祉施設、医療機関、行政機関に参加していただき、施設の現状や当院への要望など意見交換が行われました。各施設



からは、主治医や病棟看護師、退院調整課との連携が良好にできていることが多いという意見を多くいただきました。また、施設からの救急搬送時の施設看護師や家族の対応などが各施設で異なるため、施設の現状を考慮しての病院の対応をお願いしたいとの意見がありました。行政機関からは、個人情報の保護についてのケースも聞かせていただき、個人情報の扱いもより一層考慮しなければいけないと改めて感じました。退院調整課は地域の医療福祉関係機関との連携がとても大切です。今後もより良好な関わりを持てるように日々努力していきたいと思えます。

平成25年度 第1回院内合同研究発表会 開催 報告

平成 25 年 12 月 4 日 (水)

平成 25 年度院内合同研究発表会運営委員

池本 滋子

当院では、年に2回「院内合同研究発表会」を開催しております。
今年度は平成25年12月4日(水)に以下の内容を行いました。

1. ICT主催の出前講座の取り組み(医療安全推進室)
2. 電子カルテに連動した特定抗菌薬届出システムの構築と運用(薬剤部)
3. 心電図異常と契機としてリンパ球性下垂体前葉炎が疑われた一例(研修医)
4. 1)脳死下での臓器移植に至った事例
2)事例経験でわかった当院の強み(臓器提供院内コーディネーター)
5. 「命の講座」地域の学校への性教育出張講座(看護部)

この発表会では、多くの職種が研究結果や改善に向けての取り組み、事例検討などを発表します。他職種や他部門の発表から学ぶことも多くあります。意見交換などを通して連携を深め、より良い医療サービスの提供につなげています。

この発表会は「地域に開かれた会」としても開催しております。

次回は平成26年2月6日(木)に予定しております。参加ご希望の方は、お気軽にお越しただければ幸いです。



研修・講演・勉強会・検討委員会のご案内

- ・「平成25年度 第2回院内合同研究発表会」 H26年2月6日(木)17:45より 高山赤十字病院 本館3階 講堂
- ・「第3回 地域連携講演会・意見交換会」 H26年2月22日(土)16:00より ひだホテルプラザ
- ・「第4回 糖尿病地域連携講演会」 H26年3月2日(日)14:00より 高山赤十字病院 本館3階 講堂
- ・「第15回 地域連携症例検討会」 H26年3月12日(水)19:30より 高山赤十字病院 本館3階 講堂
- ・「第2回 地域連携研修会」 H26年4月18日(金)18:00より 高山赤十字病院 本館3階 講堂

※詳細は、追ってご案内いたします。

高山赤十字病院 開放型病床(オープンベッド)のご利用について

医療社会事業部 地域連携課

当院では、平成22年4月より高山市医師会、飛騨市医師会、下呂市医師会及び各市歯科医師会のご賛同も頂き開放型病床を運用しています。開放型病床は地域の開業医・診療所の先生方に開放し当院医師と共同して診療を行うものです。入院が必要で、退院後もかかりつけ医として診療に当たって頂ける患者さんを対象にしています。

紹介時、診療情報提供書にオープンベッド希望と明記して頂きます。診療後、入院が決定した場合にはオープンベッド入院患者さんとしての取り扱いとなりますので、地域連携課より連絡させて頂きます。患者さんが入院中に最低1度は当院に来院して頂き、主治医である当院の医師と共に共同で診療にあたって頂きます。退院後は入院共同診療録とサマリーを地域連携課から郵送致します。



平成22年4月から現在までに内科30床・循環器内科1床・脳神経外科1床・小児科1床のご利用がありました。

これらの医療連携は、地域の開業医・診療所の先生方のご協力がなければ出来ない事です。地域連携で患者様が安心して喜んで頂ける医療を提供していけるようご協力をお願い致します。



この度、地域医療に貢献
したとして岐阜大学医
学部附属病院から感謝
状を頂きました。



平成25年度 第3回地域医療連携検討委員会の報告

標記委員会を11月27日(水)に開催いたしました。

地域医療連携検討委員会は、地域医療機関等からの要請に対応し必要な支援を行えるよう定期的開催される委員会です。

委員会では紹介率・逆紹介率、地域連携の現状などの業務実績について報告をいたしました。又、当院皮膚科 市橋先生より「皮膚科における地域連携」の演題でミニレクチャーが行われました。

意見交換では、地域医療の連携・下呂温泉病院の新築移転・地域で必要な救急医療等、委員の方から多くのご意見を頂きました。

新任医師 の 紹介

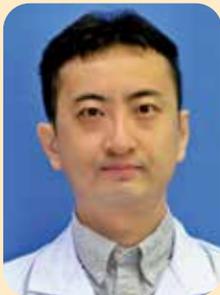
- ① 診療科・職名
- ② 氏名
- ③ 専門分野
- ④ 診療に対するモットー & 自己紹介 など



11月に1名、1月に1名の医師が赴任しましたので、ご紹介します。



- ① 耳鼻咽喉科 医師
- ② **内藤 裕介** (ないとう ゆうすけ)
- ③ 耳鼻咽喉科
- ④ 患者さんの事を考え、地域の医療に貢献していきたいと考えています。よろしくお願いします。



- ① 循環器内科 副部長
- ② **渡邊 崇量** (わたなべ たかとも)
- ③ 日本内科学会 認定内科医師
日本循環器学会 循環器専門医
- ④ 患者様に誠実な医療をモットーにしています。よろしくお願いします。

退任医師

健診センター医師 岡野 康正 10月31日付
循環器内科副部長 川村 一太 1月15日付

編集後記

あけましておめでとうございます。年末年始、9連休になった方もいらっしゃるかと思います。いかがお過ごしでしたでしょうか？子供の頃は当たり前の連休も大人になると貴重さが増します。連休を大切に過ごすことは勿論、一日一日を丁寧に過ごしたいと思うこの頃です。

さて、冬はインフルエンザとノロウィルスの流行シーズンです。(毎年、律義に流行しなくてもいいのですが、流行します...) 免疫力アップと手洗いで予防、気合いで撃退したいと思います。

訪問看護ステーション 野々尻 優美子



日本赤十字社

高山赤十字病院
地域連携課

人間を救うのは、人間だ。Our world. Your move.

〒506-8550 岐阜県高山市天満町3丁目11番地
TEL : 0577-35-1880 FAX : 0577-32-1165
メールアドレス byoshin@takayama.jrc.or.jp
ホームページ <http://www.takayama.jrc.or.jp/>